

新たな価値を体感する 空間の創造に向けて

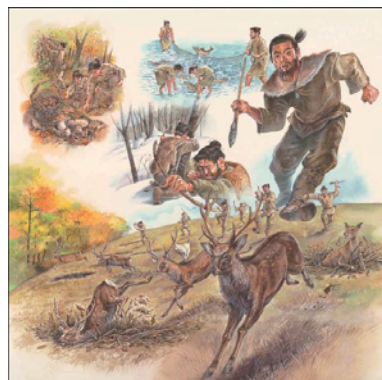
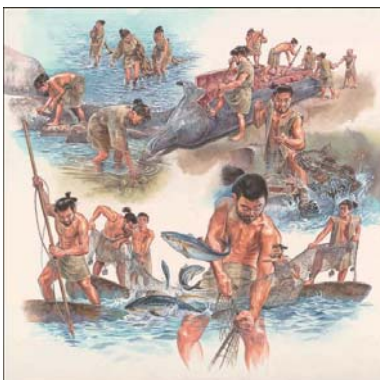
命と自然／縄文とアイヌ文化

平成27年3月8日

函館市縄文文化交流センター
館長 阿部千春

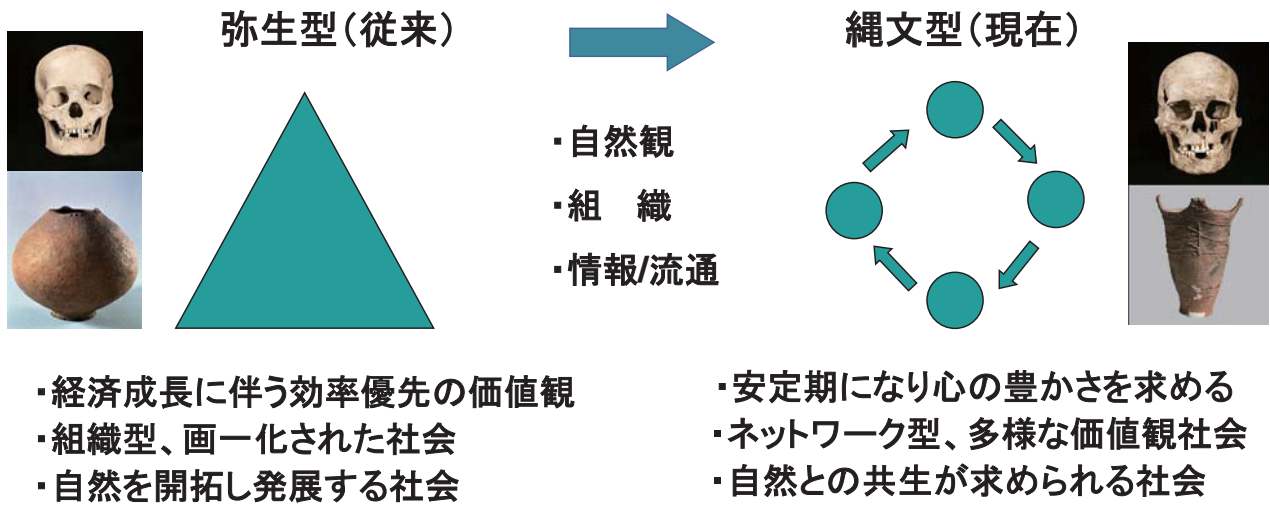
縄文文化の特徴と価値

1. 多様な自然環境のなかで、農耕をもたず、漁労・狩猟・採集を基盤として定住生活を実現した日本の先史文化
2. 1万5千年～2千年前まで、一万年以上も大規模な戦争がない時代が続いた世界的にも希少な文化
3. 土偶づくりや貝塚など、「命」を大切にしたい高い精神性を持った文化



縄文文化に対する関心が高まる背景

社会の変容に伴う価値観の変化



縄文的な循環・再生型のネットワーク社会に変化
自然と共に一万年生きた縄文人の精神性に共感

2

縄文文化の精神性-盛土遺構と貝塚



縄文とアイヌ文化が存在する北海道の魅力

3

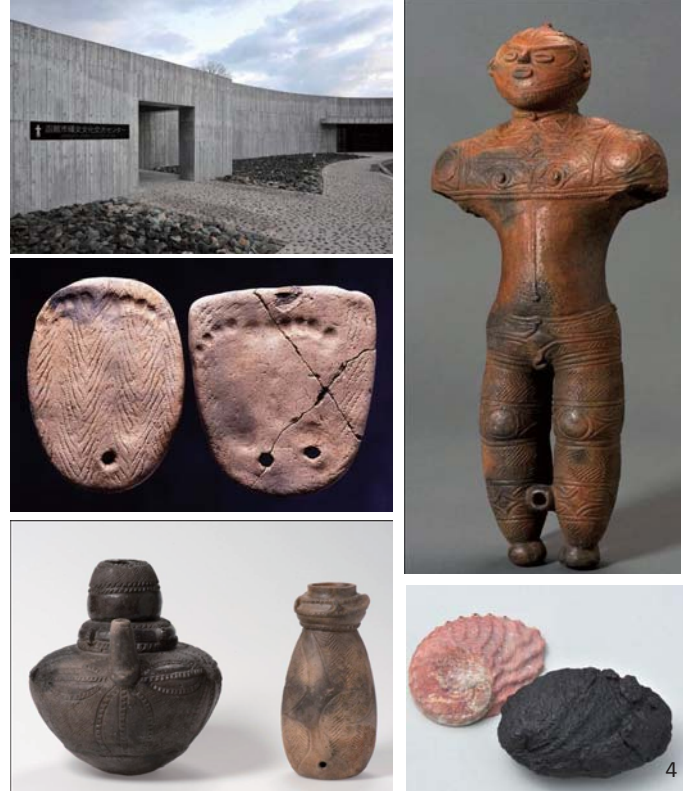
縄文文化の普及と国際交流の事例(1)

函館市南茅部縄文遺跡群と「縄文文化交流センター」

・87か所の縄文遺跡が広がる函館市南茅部地域



・北海道唯一の国宝「中空土偶」を展示する縄文文化交流センター



縄文文化の普及と国際交流の事例(2)

函館市南茅部縄文遺跡群と「縄文文化交流センター」



児童を対象とした遺跡見学会と体験発掘



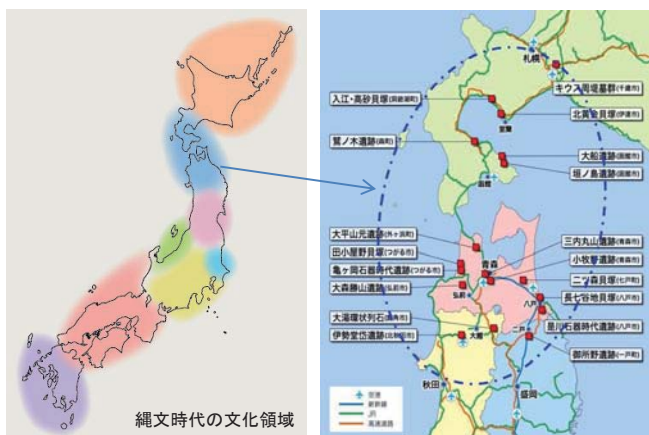
国際シンポジウムの開催



海外の大学との交流(発掘調査・学術研究・体験普及)

海外からの縄文ツアー

世界文化遺産登録への取り組み



北海道独自の戦略と課題

○北海道の資産は道南6遺跡だけであり、これを全道的な魅力として、観光振興に結びつける必要がある。

○北海道は、本州が農耕をもった弥生文化になった後も、自然と共に生きる道を選び、続縄文文化を経てアイヌ文化につながる独自の歴史がある。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」

- ・北海道・青森・岩手・秋田の4道県の18資産
(北海道は道南の6遺跡)
- ・H21年に、ユネスコの暫定リストに登載され、現在、本登録を目指している。
- ・登録後は、文化観光の拠点として期待される。

縄文・続縄文・擦文・オホーツク文化の主要な遺跡やアイヌ文化について、「日本遺産」の認定をめざし、世界遺産との連携を図る。

日本遺産:2020年のオリパラまで100か所現在、50か所が申請 *組織づくりが急務

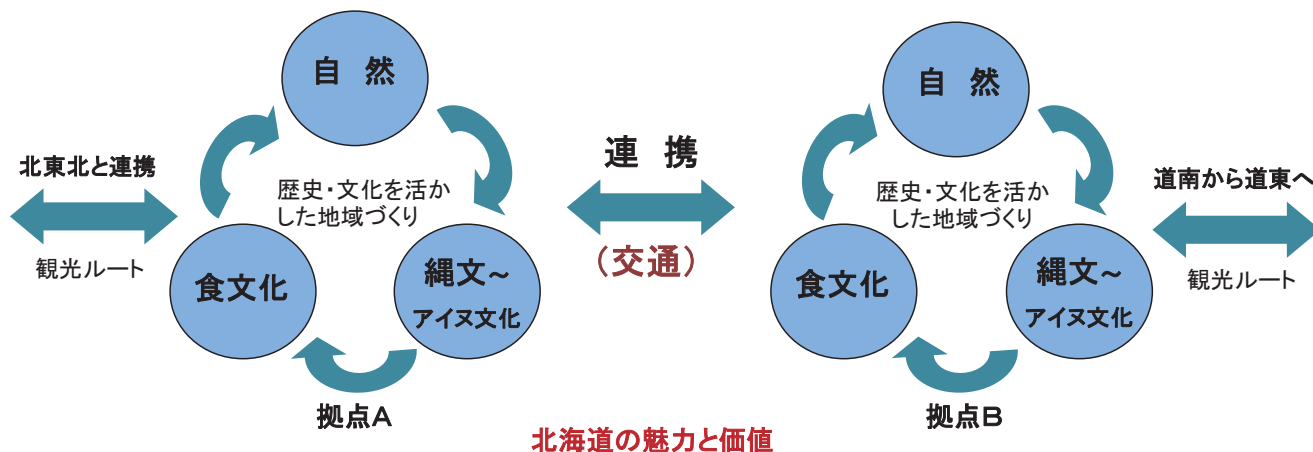
6

文化遺産のネットワークづくり

文化遺産の連携により、北海道全体の魅力と価値を発信

北海道の多様な自然環境 固有の先史文化 伝統的な食文化

縄文文化を支えた各地域の自然と食文化に光をあてる



多様な自然環境、命を大切にした縄文文化、その精神を継承したアイヌ文化

北海道島全体が世界水準の価値創造空間

7

